

1. スペイン語圏とは？ 約 20 の国と地域

[スペイン] ヨーロッパの西の端＝文化の交差点

1936～1939 内戦

～1975 フランコ独裁 →文化の断絶

英米とは違う読書環境。

[ラテンアメリカ] コロンブス以前のアメリカ 古代文明／先住民

植民地時代

三角貿易

独立（19世紀初頭）

20世紀後半：内戦、独裁等、政情不安

1960年代 ラテンアメリカ文学ブーム

100年前に日本から移民船→1990年代から日系人デカセギ

2. 20世紀半ばまでの子どもの本の状況

[スペイン]：児童雑誌の誕生(1798)／民話採集 19世紀半ば／児童書出版社(1876)／

児童雑誌の流行 1920～30

[ラテンアメリカ]：ポツリポツリと

ホセ・マルティ(1853-1895)『黄金時代』キューバ

ラファエル・ポンボ(1833-1912) 詩 コロンビア

ルベン・ダリーオ(1867-1916) 詩 ニカラグア

オラシオ・キローガ (1878-1934) 『ジャングルの物語』ウルグアイ

ガブリエラ・ミストラル(1889-1957) 子ども詩 チリ

図像文化・壁画文化のあるメキシコ

コミック文化のアルゼンチン 19世紀半ばから 1940-1960 黄金時代

キノ『マファルダ』

先住民の民話採集は西欧主導

3. 日本ではどんな本が紹介されてきたのか

20種類以上の版がある『ドン・キホーテ』1893～（最初は英語を介して）

スペイン語からの翻訳は 1951年の永田寛定版から

コロマ神父『ねずみとおうさま』

バルトロツィ『ピノチオの冒険』

フアン・ラモン・ヒメネス『プラテーロとわたし』

国際アンデルセン賞作家 ホセ・マリア・サンチェスシルバ『汚れなき悪戯』その他

アナ・マリア・マトゥーテ『きんいろ目のバッタ』

少ないラテンアメリカ発の作品

#### 4. 1980年以降の子どもの本の変遷

##### [スペイン]

内戦と独裁の後、自由な表現を得た1980年代。多様なテーマの作品

いたずらっ子、さまざまな家族、歴史・社会批判、ファンタジー、ナンセンス……

2000年ごろから、絵本ブーム。独裁後世代の出現。エンタメ系の翻訳小説の激増

製作・研究分野で、スペインと中南米の連携

##### [ラテンアメリカ]

1980年～現代的な児童書出版の始まり

2000年～児童書の編集者、作家、研究者の横のつながり

#### 5. スペイン語圏の独自性

##### 1) 本がある地域、ない地域

物語と詩はどこにでもあるが、本は平和で豊かな社会のもの

本ごとに、販売地域(国)はさまざま

##### 2) ラテンアメリカで、自分たちの文化や歴史を本にしようという動き

##### 3) 英米の絵本の洗礼を受けず、独自に表現を模索してきた絵本作家たち

子どもに媚びないのか、芸術の発露か、どこか大人っぽいテイストも

国境を超えて活躍する画家たち

##### 4) 児童文学のテーマ

スペインの作品は、英米の影響が大きくなってきている

ラテンアメリカの子どもたちが生きのびていくことは？

#### 6. まとめとして